



4 月 園 だ よ り

平成 30 年 4 月 2 日
きのさきこどもえん

ご入園・ご進級おめでとうございます。

新入園の子どもたちを迎え、賑やかに新年度が始まりました。気持ちも新たに出發します。今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

- 1, 明るく 元気で一生懸命あそべる子に、
- 2, 正しく 生活習慣など、身のまわりのことが自分で出来る子に、
- 3, 仲良く 優しく、思いやりのある子に、

以上のような願いをもって職員一同また、気持ちを新たに保育・教育にあたります。

今年度は認定こども園教育保育指針の施行を受け、園の「全体的な計画」を新たに策定し、入園から卒園まで一貫した育ちを支えるべく行事や活動内容を検討しています。また、昨年の様子を考慮しながら各年齢の子どもたちがより過ごしやすいように、また、より教育効果が高くなるように考えていきます。そうぐみ、きりんぐみは異年齢での活動を増やし、異年齢で、また、学年ごとの「協同的な学び」の場を多く設定します。うさぎぐみは徐々に午睡をしないようにしていきます。これは、生活リズムの中心を早寝にあると考え、体力のついてきた年齢では日中にしっかり活動を行い、夜自然と早く寝ることが出来るようになるためです。なお、それぞれのお子さんによって、また、その日の体調によっては個別に休息をするようにしていきます。そして、ひよこぐみ、あひるぐみ、りすぐみは「保育担当性」を採ることでお子さん一人一人へ緻密な対応を行います。小さい年齢の子どもたちは集団で一斉に何かを行うことよりも、個別に保育者との関係性を深めること(愛着の形成)が大切です。これにより安心して園生活を送ることが出来ます。そしてその安心感を土台に他者への信頼感、自己肯定感をはぐぐみ、集団の中で自分を発揮したり、他の人のことを考えて行動できるようになります。

城崎こども園は就労などご家庭のご事情によりお子さんをお預かりする福祉施設ではありますが、第一義は子どもたちの将来を見据え教育を行う「教育施設」です。園では保護者のご希望をお聞きしながらもまず、大人目線ではなく、「子どもたちにとって」を第一に考えて活動や環境を設定していきます。そのために保護者の皆様には様々にご協力をお願いします。また、行事など活動によっては子どもたちの様子をご理解いただくためご参加をお願いすることもございます。ご理解ご協力お願い申し上げます。

以上のように様々なことで昨年までと変更しております。これは今までの方法が必ずしも「正解」とは考えていないからです。子どもたちにとってより良い保育・教育に「正解」はありません。私たちは目の前にいる子どもたちにとって最も良いと考えることを日々行っていくしかありません。変えるべきところは今までの形にこだわらず、保護者の皆様にもご意見をいただきながら改善し、より質の高い保育教育を行って参ります。そのために今年度も昨年に引き続き大学、専門機関から講師を招き、毎月園内職員研修を行います。また、各職員は園外の研修に参加し専門の研鑽を深めていきます。

4 月 27 日に開催予定の保護者会総会の際に今年度の園の教育保育内容についてご説明いたします。

社会福祉法人城崎こども園 平成 30 年度役職員体制
役員体制

理事長 西垣義弘

理事 久保田敬三 椿野仁司 田上勝己 上村雅道 西垣浩文

監事 谷垣英夫 四角 勤

評議員 久保田一郎 河原正之 斉藤八一郎 萬谷久司 竹内一雄 保護者会長

職員体制(4 月 1 日現在)

園長 西垣浩文



主幹保育教諭 3 歳以上児担当 中尾繭子
3 歳未満児担当 岩本千晴

そうぐみ(5 歳児 38 名) 松田由貴 河本千里 竹内仁美

きりんぐみ(4 歳児 23 名) 尾上真紀 柳本末希

うさぎぐみ(3 歳児 29 名) 太田麻美子 鷹野雛美 久斗亜里砂 竹中都城美

りすぐみ(2 歳児 24 名) 米谷美紀 藤原知翔子 福井 栄(看護師)

あひるぐみ(1 歳児 18 名) 末廣敦子 山本千裕 黒田紘子 宿院陽子

ひよこぐみ(0 歳児 4 名) 石原博恵 古西浩子 木谷美和 岩下明美

フリー保育教諭 宮田千春 齋藤由佳(1 月復職予定) 岡本奈美(2 月復職予定)

城崎放課後児童クラブ ほしぐみ(園舎) 北村 彩 山本真由美

つきぐみ(学童棟) 小谷友奈 加藤宏明

調理員 松井香代子 松岡美幸 新玉真衣子(栄養士)

事務員 田上智代

以上で出發です。よろしくお願い申し上げます。

季節、また 活動などによってはクラス、年齢の枠をこえてあそびます。

新入園の方へ

しばらくの間は、毎朝たいへんかと思えます。誰も一度は、経験する事ですので、心を強くして送り出して下さい。一日中、泣いておられる事はありません。帰宅のときは、温かく迎えてあげましょう。毎日の育児のなかで色々な発見やまた、悩みも起こってくることもあります。一緒に育ち合うという環境や雰囲気作りがもっと大切になっています。お気づきのことなんでもお知らせ下さい。一緒に考えてまいりたいと思います。

お願い

○登降園について

登園時及びお迎えは必ず保育室まで保護者の方がお越しください。

なるべく徒歩・自転車での登園に御協力ください。4 月よりみなとやモータープールはご利用になれません。長時間になる場合はこの湯横の園の駐車場をご利用下さい。お迎えに来られるご家族の方にも必ずお伝えください。

また、登園されたときは必ず手洗いをお願いします。これは感染症予防のためとアレルギーをお持ちのお子さんにご家庭からのアレルギー物質を接触させないためです。お子さんによっては命に関わる場合もありますので御理解御協力お願い致します。

○給食について

全クラスとも主食、副食とも提供します。毎月発行の献立表のとおりです。

○年間行事予定は別紙の通りです。

変更になる場合もございます。その場合はお知らせいたします。

○クラスだよりについて

クラスだよりは奇数月末発行とさせていただきます。園だより、給食だよりは毎月発行です。

○「園からのお知らせ」について

「園からのお知らせ」は園が発行する園だより、クラスだより、給食だより等を綴っていただくものです。園生活の記録にもなりますのでご家庭で保管してください。

○保育料について

保育料の引き落とし日は毎月 27 日(休日の場合は翌営業日)となります。残高確認をお願いします。

○制服、体操服代の納入について

年度当初に購入された制服、体操服代は 12 ヶ月の分割で納めて頂きます。毎月集金袋をお渡ししますので事務室にお持ち下さい。

○園内でのけが、子ども同士のトラブルについて

園内で起こったことはすべて園の責任です。お子さん自身によるけがなどはもちろん子ども同士のトラブルについても同様です。その場合は必ず双方の保護者にお伝えします。何かございましたら園にお知らせ下さい。なお、園の責任ではあります。保護者同士お声を掛け合っただけだとありがたくじます。

○感染症について

感染症については学校保健法に則り、登園停止等をお願いしております。感染の蔓延を防ぐための措置です。抵抗力の弱いお子さんもおられますので場合によっては園舎、保育室への入室をご遠慮いただくこともございます。御理解御協力をお願いいたします。水いぼ、手足口病は基本的に登園停止とはなりません。担当医の指示に従って下さい。ご不明な点ございましたら園にお問い合わせ下さい。



1日	(日)	平成30年度開始・休日保育	17日	(火)	そうぐみ幼年消防クラブ結団式	
2日	(月)	0, 1, 2歳児入園始業式	18日	(水)	園内研修	
3日	(火)		19日	(木)		
4日	(水)		20日	(金)		
5日	(木)		21日	(土)		
6日	(金)		22日	(日)	休日保育	
7日	(土)		23日	(月)		家庭訪問
8日	(日)	休日保育	24日	(火)	温泉まつり・自由登園日	
9日	(月)	3, 4, 5歳児入園始業式	25日	(水)	英語遊び・そうぐみクッキング	
10日	(火)		26日	(木)	誕生会・身体測定	
11日	(水)		27日	(金)	保護者会総会	
12日	(木)		28日	(土)		
13日	(金)		29日	(日)	昭和の日・休日保育	
14日	(土)		30日	(月)	振替休日・休日保育	
15日	(日)	きりんぐみ養老会出演・休日保育				
16日	(月)	座禅指導				

※「リトミック指導」は、昨年度と同じく木村美幸先生」お迎えし実施します。

※英語遊びを今年度も引き続き、5月より月2回行います。

※27日は保護者会総会です。総会の後、今年度の教育保育についての説明会を行います。

※23日～28日は家庭訪問をさせていただきます。今年度より新入園のご家庭とご希望のあるご家庭のみとさせていただきます。日時は後日個別にお知らせいたします。

※15日の養老会にはきりんぐみが参加し、昨年度の発表会での演技をします。詳細は後日お知らせいたします。

※誕生会について

そうぐみ・きりんぐみ・うさぎぐみの誕生会ではその月の誕生児の保護者の方にご覧いただきたく存じます。是非お越しください。毎月10時からです。ひよこぐみ・あひるぐみ・りすぐみの方は保育中にお家の方を見ると別れ難くなるお子さんもございますのでご遠慮いただくたく存じます。

※座禅指導について

毎月1回そうぐみ・きりんぐみは極楽寺本堂で座禅指導を行います。保護者の方もご参加いただけます。そうぐみ 9時～ きりんぐみ9時30分～

<保育雑感>「あかるく・ただしく・なかよく」

3月、4月は別れと出会いの季節。桜は日本人にとってこの季節を象徴するように思います。淡いピンクは別れの切なさを葉桜の黄緑は出会いへの期待を。それぞれに大きな期待とちょっぴりの不安を持って新たな世界へ歩み出していることでしょう。

私たちは成長の過程でいろいろな人と出会います。最初は母そして父です。それから祖父母、兄弟などの家族、そして行動範囲が広がるにつれて、ご近所から園、学校、社会と人間関係も広がっていきます。そうやって社会生活へ適応していきます。その最初の場が城崎こども園です。ここで子どもたちはたくさんの初めてに出会うでしょう。楽しいこともあれば、嫌なこともあるかもしれません。この新しい世界に踏み出す力は家庭という心の基地があってこそ育まれます。それは子どもと接している「時間」ではなく、その「深さ」によって培われるものです。子どものことが第一ではありますが、それとともに大人が自分自身も大切にして下さい。子どもも大人も同じ1人の人格です。自分を大切にすることは相手を大切にすることです。子どもには子どもの世界が、大人には大人の世界がある。あかるく、ただしく、なかよく、それぞれを大切にしていきたいものです。